



2016年4月27日

洗車 & 洗車用品について

～4月28日は「洗車の日」。洗車の副次的効果と洗車用品の紹介～

【目次】

ニュースレター発行にあたり	P2
1 洗車の基礎知識	P3
(1) 洗車の必要性について		
(2) 洗車用品市場について		
(3) 洗車用品について		
(4) 洗車の手順について		
2 洗車ユーザーについて	P8
3 おわりに	P10

株式会社オートバックスセブン
I R・広報部

ニュースレター発行にあたり

～4月28日は「洗車の日」。洗車の副次的効果と洗車用品の紹介～

「4月28日」は何の日かご存じですか？——4月28日は「洗車の日」です。まだまだ知らない方もいらっしゃると思いますが、この機会に覚えていただければ幸いです。

大型連休前のこの時期、行楽地に車で出掛ける方も多いと思います。せっかくならばきれいな車を出掛けたい。寒い冬が終わって水の冷たさも気にならなくなるこのシーズン、洗車需要はピークに達します。

4月28日を洗車の日にしたのは「よい艶（ツヤ）」からの語呂合わせで、一般社団法人日本記念日協会が正式に認定した記念日です。

「洗車の日」は、自動車のアフターマーケットビジネスに携わる企業団体の有志で結成した、オートアフターマーケット活性化連合（AAAL）の「洗車を通じて車への愛着を深めてもらいたい」という思いから発案されました。スタートは2008年。今年で丸8年目を迎えました。

オートバックスグループも AAAL に加盟する団体（一般社団法人自動車用品小売業協会）の一員として、この「洗車の日」に合わせて「春の洗車キャンペーン」（2016年3月1日～5月8日）を全国各地で展開しています。

■「洗車の日」シンボルマーク



自分で洗車するにはシャンプーやクリーナー、ワックスなどのケミカル品、スポンジやブラシ、バケツなどの洗車用品が必要になります。

カー用品店やホームセンターの洗車用品コーナーにいくと、パッケージに用途や機能が書かれた商品がズラリと並んでいます。種類が多すぎるせいか、自分の車にあう商品を選ぶのはなかなか難しそうです。ちょっと調べていくと、酸性雨クレーター、イオンデポジット、ウォータースポットなど聞いたことがない専門用語に出くわします。洗車の初心者や車に興味のない方にとっては、わからないことばかり。洗車用品選びの段階から面食らってしまいそうです。

大手ケミカルメーカーの調査によれば、近年は新車購入時に高額なボディコーティングを依頼されるユーザーは6割（軽自動車除く）に達しているそうです。

ボディコーティング施工は撥水効果が長持ちし、その後のお手入れも簡単になるという触れ込みで急速に認知を得ました。しかしながらその背景には、DIYで洗車するのは時間がかかりそうだし難しそう、洗車用品選びも大変そう——そんな事情があるのではないのでしょうか。

そこで今回のニュースレターは「洗車の日」を機に、自分で車を手入れするDIY洗車にスポットをあてて、もっと洗車を身近に感じていただけるよう、洗車がもたらす副次的効果や洗車に必要な洗車用品、基本的な洗車手順についてご紹介します。

1 洗車の基礎知識

(1) 洗車の必要性について——

●避けて通れない塗装面のトラブル

当然ですが車は外を走ります。雨の日もあれば、照りつける猛暑の日、砂ぼこりの中を走ることもあります。春先であれば、花粉や黄砂、夏であれば虫の死骸、冬であれば凍結防止剤（塩化カルシウム）による塩害もあります。直射日光が強い日はボディに残った水滴がレンズのような働きをして、塗装面の一点に強い光を集めて



車がきれいになれば車を大切にしようという気持ち生まれる

て塗装面を傷めつけたり、鳥の糞がこびりついていたりすることもあります。そのままにしておくとボディの塗装面はどんどん傷んでいきます。それを防ぐには洗車をするしかありません。

洗車の頻度は人それぞれだと思いますが、たまにしか洗車しないと、ピッチやタール、水アカ、雨じみなどさまざまな汚れがついたままになっています。ですから、一度できれいにするには作業も大変です。また、フロントガラスも油膜でガラガラしたままでは、雨天時や夜間など視界は大きく妨げられ、事故の危険もあります。

一方、頻繁に洗車をしていると、ワックス、コート剤などがボディを守り、汚れも付きにくくなっていますので洗車は比較的簡単に済みます。フロントガラスの視界が良好であれば、安全運転にもつながります。

部屋をきれいにするとすがすがしい気持ちになるのと同じように、車がピカピカになれば、気分も良いものです。車がきれいになれば、愛着が湧き、大切にしよう、安全運転をしようと思えるはずですよ。

●日常点検につながる洗車時の“気付き”

自分で洗車すると、こんな効果も期待できます——

車は人を乗せて走る機械です。機械である以上、経年変化による部品の消耗や劣化は起きるものです。

国土交通省では車に安全に乗ってもらうために、ブレーキの効きやタイヤの空気圧、エンジンオイルの量や汚れなど15の点検項目を掲げ、これらを日常的に点検することを義務づけています。

しかし、実際に一般のドライバーがこうした日常点検を行っているケースはごくまれで、中には車のボンネットの開け方すら知らない人もいますと聞きます。頻繁に運転していても、ボディ周りを見る機会、意識も薄れてきているのではないのでしょうか。

自分で洗車をする人は、タイヤやボディなどを間近に見ることで、それまで気付かなかったタイヤのひび割れや、ボディについた小傷、ワイパーゴムの傷みなどを見つけることができます。これは、洗車を通じて日常点検の一部を実践しているようなものです。つまり洗車はきれいにするだけでなく、その過程でドライバーがいろいろな気付きを得る機会となるわけです。タイヤがすり減っているとか、空気圧が足りないなど感じて対処すれば、部品の経年劣化で起きるトラブルや事故を未然に防げるかもしれません。

冒頭で紹介したように「洗車の日」は、洗車を通じて多くのドライバーに車に愛着をもってもらうという思いからスタートしましたが、洗車には「安全確認」という副次的な効果も大いに期待できるわけです。

(2) 洗車用品市場について

カー用品市場低迷の中、洗車市場は堅調に推移しています。自動車用品小売業協会（APARA）がまとめたカー用品店の売上概況によると、2015年（1月～12月）のケミカル用品の売上高は前年比0.8%増の196億7,800万円でした。新車販売の不振や暖冬の影響を受け、大物商品が伸び悩むなか、底堅い需要をキープしています。

● 簡単コート剤が洗車用品市場をけん引

表1のオートバックスセブン 2015年度の販売数量売れ筋ランキングのコート剤部門を見ると、トッ



オートバックスの
2015年度コート剤
部門第1位となった
ペルシード

プは標準売価3,240円（税込、以下同）の高級コート剤「ペルシード」（ミラリード）でした。ベスト10中、最も高価格の商品が1位で、そのほかベスト10圏内には簡単コ

ート剤の先駆けとなったシュアラスターのゼロウォーター280ml（3,024円）、ゼロウォータードロップ（3,024円）、CCIのスマートミスト280ml（2,500円）などカーケミカル部門の中でも価格の高い商品がランクしています。洗車用品は消耗必需品であることから比較的安定している市場ですが、こうした高価格帯の商品が最も支持されているジャンルはそう多くはありません（ちなみにワックス部門のトップは1,000円以下）。

簡単コート剤はスプレーして拭き上げるだけ。簡単に施工できて、ワックスよりも効果が持続。施工するたびにコーティング被膜が重なりツヤが増していく。これが支持されている理由です。すでに販売数量でも固形ワックスを上回り、洗車市場全体をけん引する動きを見せています。

● 新車販売時の6割（軽自動車除く）を占めるコーティング施工車

もうひとつのトレンドとして注目されているのは、新車ディーラーなどでコーティング施工された車の増加です。大手カーケミカルメーカーの調査によれば、現在、新車の6割（軽自動車除く）が新車購入時にコーティングを依頼しているそうです。コーティング施工車の場合、また強力なクリーナーやワックスを使用するとコーティング面を傷めてしまう危険性があります。何もしないでいいと誤解されるケースもあります。施工したからといってメンテナンスが不要になるわけではありません。そのコーティング自体も酸性雨や紫外線、排気ガスや砂ぼこりなどの外部環境にさらされ、酸化劣化しますので、今度はその劣化した被膜を取り除くために、こまめに洗車しなくてはなりません。そうしたニーズに対応し、最近ではコーティング施工車専用のシャンプー、ワックスなどの商品がラインナップされています。

オートバックスグループでは、市場環境の変化に対応し、コーティング施工された車向けの専用コーナーを設置しています（写真右参照）。

表1 2015年度 売れ筋ランキング コート剤部門

	メーカー名	商品名
1	ミラリード	PCD09 ペルシード 180ml
2	CCI	スマートミスト 180ml
3	ソフト99	スマートエッグハイドロフラッシュ
4	CCI	スマートミスト詰替 500ml
5	シュアラスター	ゼロウォータードロップ S87

ート剤の先駆けとなったシュアラスターのゼロウォーター280ml（3,024円）、ゼロウォータードロップ（3,024円）、CCIのスマートミスト280ml（2,500円）などカーケミカル部門の中でも価格の高い商品がランクしています。洗車用品は消耗必需品であることから比較的安定している市場ですが、こうした高価格帯の商品が最も支持されているジャンルはそう多くはありません（ちなみにワックス部門のトップは1,000円以下）。



コーティング施工車向け洗車グッズ
コーナー

(3) 洗車用品について——

洗車用品といっても車の内外装、足回りなどさまざまな洗車関連アイテムがあります。代表的なものをいくつかご紹介いたします。

シャンプー——洗車の基本は大量の水と泡です。このセオリーを無視していきなりスポンジでゴシゴシこすってしまうと塗装面をキズつけてしまいますので、まずは水をかけてボディについた砂ぼこりや泥を洗い流します。シャンプーは空気をたくさん含ませると、洗浄力が高まります。バケツに水を張った後にシャンプーを入れてもうまく泡立ちませんが、先にシャンプー液を入れてその後に勢いよく水を入れると泡立ちます。

①水アカシャンプー——中性・ノーコンパウンドでワックスを落とすことなく洗浄でき、ポリマー加工車のメンテナンスにも最適なシャンプーです。

②コーティング施工専用シャンプー——コーティング施工車向けシャンプーです。シャンプー洗車するだけで、効果の弱まってきたコーティング被膜を修復し、艶感をよみがえらせます。

③ワックスシャンプー——洗剤成分で汚れを落としながら途中でワックス成分が分離し、塗装面に定着するシャンプーです。メーカーによって洗浄力が強いもの、ワックス効果の強いものもあります。



シャンプーは洗車の基本アイテム

ワックス——水をはじき、ボディを保護するカーケミカルの総称です。代表的なワックスは、本格的なコーティング剤からシートタイプワックスまで、大きく7種類に分類することができます。

①コーティング剤——シリコンやフッ素系の樹脂がベースで液体が中心。ツヤは固形に劣りますが、撥水性・耐水性効果はともに固形を上回ります。非常に強い膜を作るので、塗装への保護効果も優れています。

②固形（ハードワックス）——合成ワックスもありますが、現在は主としてカルナバロウ（カルナバヤシの葉から取れる樹脂）配合の油性タイプワックスのことを呼ぶ場合が多い。カルナバロウは天然成分の樹脂の中でも特に硬く、独特のツヤがでますが、汚れを落とすことはできません。

③半ネリ（ソフトワックス）——水や界面活性剤（乳化剤）、研磨剤を混ぜ合わせたペースト状のワックスです。固形ワックスと異なり、汚れを落とし、拭き取りも簡単ですが、撥水性・耐久性は劣ります。近年は防水、耐水などの比較的水弾きの良いものやキズ消し効果のあるものもあるようです。

④液体ワックス——液体ワックスは高粘度のワックス液体のため、半ネリタイプよりも作業性に優れています。しかし耐久性はなく、水アカ取り、キズ消し用などのクリーナータイプや塗装のメンテナンスを目的とした使い方のものが多いです。

⑤トリガーワックス——液体ワックスをトリガーでスプレーして使用するタイプです。代表的なものは撥水・ツヤ出し系。水洗い不要のクリーナータイプや塗り込みも拭き取りもいらぬタイプがあります。

⑥シートタイプワックス——不織布に液体ワックス成分が染み込ませてある使い捨てタイプのワックスです。利便性に優れますが、砂ぼこりが多い場合、塗装に傷がつく恐れがあります。



クリーナー機能もある半ネリワックス



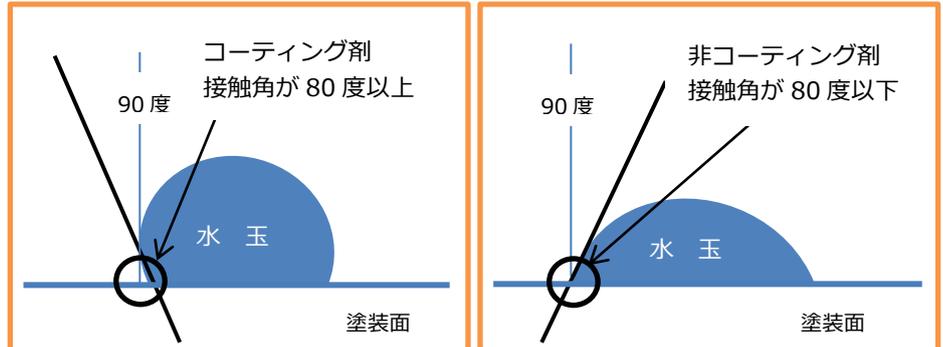
ロングセラーを続けるシートタイプワックスのフクピカ

なおワックスの撥水性、耐水性の効果については、①のコーティング剤に近づくほど強く、⑥のシートタイプワックスに近づくほど弱くなります。

(参考) ワックスとコーティング剤の違いについて

近年注目を集めているコーティング剤——。車の塗装面を保護するという目的ではワックスと違いはありません。ではなぜ言い分けているのでしょうか。それは撥水性、耐水性など、耐久性の違いにより、区別されています。これは日本工業規格 (JIS) に定められていて、1 カ月以上の耐久性を有するものをコーティング剤と呼んでも良いと定義しています。テスト内容は光沢保持率と接触角の2項目。光沢保持率が、施工当初の光沢から1ヵ月後 90%を保持し、なおかつ接触角が 80 度以上の場合、コーティング剤と認められます。つまり施工してから1ヵ月経過した時の光沢の減衰率は 10%以内となります。

接触角とは水玉と塗装の角度のことで、80 度以下になると不合格です。つまりコーティングをした時より水玉が低くなり、変形してくれば、本来の撥水効果が徐々に薄れてきたことを意味します。



コーティング剤の条件のひとつが水玉と塗装面の角度 (接触角)

(参考) 疎水性コーティング剤について

コーティング剤には水をはじく撥水タイプと、水玉状にせず水を広げる疎水 (そすい) タイプがあります。撥水タイプは細かい水玉ができてその効き目が明確に見えることから高い人気を誇っていますが、近年はその水玉が雨ジミなどの要因になるとも言われています。疎水タイプのコーティングは水玉ができないため見た目はやや地味ですが、雨ジミがつきにくいという利点があります (疏水=水になじみにくいこと、またなじまないこと。親水の対義語/ウィキペディアより)



雨ジミができにくいことから撥水性コーティングと人気を二分するようになった疎水性コーティング

クリーナー——クリーナーには汚れの種類によってさまざまなタイプがあります。ここでは頻度の高いものを紹介します。

①粘土クリーナー——ボディの塗装面に突き刺さった鉄粉を粘土で除去する下地処理用クリーナーです。塗装面を傷めることなく、ざらついた塗装面を平滑にします。使い方は水を流しながら、もしくは霧吹きをしながらボディに粘土をあてて軽くこすっていきます。

②ホイールクリーナー——泥や油、ブレーキダストなど頑固な汚れがつきやすいホイールは、ボディ以上に厳しい環境にあるパーツです。ホイールクリーナーの強力洗浄成分がブレーキダストや油汚れをすっきり落とすとともに、高分子シリコン樹脂がホイールを油汚れからしっかり守ります。

③タイヤワックス——洗車の仕上げとして使いたいののがタイヤワックスです。タイヤの汚れを落とすだけでなく、タイヤらしい自然なツヤのある黒い仕上げがポイントです。足回りがきれいだと、車全体の見映えがガラリと変わります。



鉄粉は粘土クリーナーで水を掛けながら除去します

④ウインドクリーナー——窓にひと吹きかけるだけで油膜を除去するクリーナーです。ダッシュボードの中などに常備しておけばいつでも安全な視界を確保できます。また、フロントガラスの撥水加工を行う車が増えたことからウインドウォッシャー液も撥水タイプが主流になっています。

洗車用品——シャンプーやワックスをより効果的に使うには専用に開発されたものや便利に使用できるものが販売されています。

①ウエス&スポンジ——洗車の工程で重要なのがボディに付着した水滴の拭き取りです。これを放置すると水アカとしてボディに残ってしまいます。ウエス選びのポイントが吸水性。サイズも豊富なので用途に応じたものを使い分けるのがポイントです。



合成セーム

②合成セーム革——自己吸水力のあるPVA（ポリビニルアルコール）スポンジの微細気孔で吸水はもちろん、しっかり水分も補給します。洗車後の水滴のふきとりに効果があり、拭き取った水分をしっかりホールドしながら、独特のやわらかさ、なめらかさを保ちます。

③洗車スポンジ・ブラシ——スポンジも用途に応じてバリエーションが増えています。RVや1BOXカーなど背の高い車には柄付スポンジ、柄付ブラシが便利です。また、スポンジをグローブ化し、グリルやバイザーなどの隙間を素手で洗える感覚を持つものもあります。コーティング施工車には保水力を高め、ボディをやさしく洗い上げるコーティング施工車専用スポンジもラインナップしています。



洗車用マイクロファイバークロップ

④マイクロファイバークロス——超極細繊維を使って編まれた洗車用クロスまたはタオルは、現在の洗車に欠かせない用品となっています。軽く拭くだけで皮脂や汚れを繊維の網細管現象によって高い吸水性を実現。綿のクロスは汚れを押し広げるのに対し、マイクロファイバークロスは髪の毛の100分の1の細さで汚れを掻きだしていきます。

⑤毛ばたき——毛ばたきは長い歴史を持つ洗車用品のひとつ。ボディについたホコリを柔らかい羽根で取り除くため傷をつけてしまうことはありません。天然素材の羽根のため、変色することがなく長期間使用できます。需要もあるため、オートバックスグループでは現在でも品ぞろえしています。



毛ばたき



フタ付きバケツ

⑥バケツ——普段は洗車用品を収納するフタ付きバケツですが、洗車の際は大型車を洗う時の踏み台としても使えます。

その他——家庭用品などの中にも洗車用品として流用できるものがあります。

①隙間掃除アイテム——車にはさまざまな隙間があります。手が入る隙間であればいいですが、スライドドアのレール部など手を入れられないスペースもあります。綿棒、歯ブラシ、つま楊枝など、どこの家庭にあるものが隙間掃除に力を発揮します。

(4) 洗車の手順について——

●洗車日和は「くもりの無風日」

洗車は主に屋外で行います。ですから天候によって洗車は不向きな日もあります。風が強い日、直射日光が強い日、猛暑の日などは避けた方が賢明です。風が吹けば砂ぼこりが舞い、ボディに付着し、それを気づかずに拭くと傷が付いてしまいます。日射しが強い日や猛暑の日は、塗装面が乾き、熱くなります。塗装面が熱いままワックスを塗るとムラの原因となります。

では、どのような日がベストなのでしょう。ずばり洗車日和は「くもりの無風日」です。気温については25度以下。春は洗車の最大需要期ですが、多くの地域で3月は花粉、4月は黄砂の飛散がそれぞれピークを迎えますので、洗車を行う際は、ボディを十分洗い流してから始めることが大切です。

車をきれいにするには、汚れの種類を知っているとクリーナー選びや作業がスムーズになります。汚れは「無機物」「有機物」「その他（化学反応など）」の3つに分けることができます（表1参照）。

表2 汚れの種類

無機物	有機物			その他（化学反応など）	
砂 ほこり 鉄粉	樹液 粘度があるため、乾くと取るのが困難	鳥の糞 酸性度が高くシミやくぼみの原因になる	昆虫の体液 脂肪酸や蟻酸などの酸性の成分が塗装を傷める	酸性雨 酸性度の強い雨が塗装面を傷め、フチのあるシミ状のくぼみをつくる	イオンデポジット カルキなどを含む水道水が紫外線や熱で化学反応（イオン化）を起こした後に蒸発すると、白いシミになって残る
	ワックス斑 ワックスかすに汚れがたまり、しみシミになる	タール、ピッチ 路上の油分など。放置すると取りづらくなる	ばいえん（排気ガス） 空中に漂う排気ガスに含まれる油分で汚れる	ウォータースポット 水滴がレンズの役割になり、塗装面を焼いてシミをつくる	洗剤の残りかすによるクレーター すすぎ不足で残った洗剤とコーティング剤などが化学反応をおこし塗装を傷める

汚れといっても代表的なものだけでこれだけあります。水洗いで落とせる無機物の砂やほこりと違い、排気ガスや大気中の汚れが雨と共に塗装に付着すると簡単には落ちません。クリーナーは塗装面の状況をチェックして選んでください。

2 洗車ユーザーについて

●手短な洗車を望む層が6割 洗車頻度は2カ月に1回

最後に洗車ユーザーの現状についても紹介します。洗車の環境はどのようになっているのでしょうか。ある大手石油元売会社の店頭ユーザー調査（2015年調査／n=3,000）では、洗車するユーザー層を以下の4つに分類しています。

- ① 自分で洗う時間が取れず（取らず）、洗車機やセルフ洗車場で手短かな洗車を望む層（57%）
- ② よほど汚れないと洗車しない無関心層（20%）
- ③ 洗車といえども他人には触らせないマニア層（15%）
- ④ 自分では洗車はしないが、手洗い洗車で仕上がりにこだわりを持つおまかせ層（8%）

なおこの調査は10年前にも行ったそうですが、その時に比べ①が3ポイント減、④が3ポイント増で、②と③は変化は見られなかったようです。

次に洗車の頻度についてはどうでしょう。

ある大手ケミカルメーカーの調査によれば、洗車の頻度は年々減少しているとしています。いまから約 20 年前は 1 カ月に 1 回が大半を占めていましたが、2007 年の調査では 1 カ月に 1 回が 25%、2 カ月に 1 回が 25%でほぼ横並びとなり、2012 年は 2 カ月に 1 回という回答が大半を占めているそうです。

原因としてあげられているのが、新車購入時に行うコーティングの施工率上昇です。現在は「新車販売時にコーティングをメニューに入れていないディーラーはない」というほど一般化しています。実際、新車ディーラーで見積書をもらうとコーティングの料金欄にはあらかじめ施工料が記入されているディーラーもあります。そのメーカーの調査によれば、新車販売時、コーティングを施工している比率は 2012 年の段階では 4 割でしたが、現在は 6 割に増えたとしています。

●ワックス、コート剤の売れ筋にみるユーザーニーズの変化

最後にオートバックスグループで販売されたワックスとコート剤の販売動向からユーザーの洗車用品に対するニーズの変化を見ていきます。

表3 ワックス&コート剤 売れ筋ランキング (1998、2015 年度)

オートバックスセブン調べ

1998 年度 売れ筋ランキング ワックス部門				2015 年度 売れ筋ランキング ワックス部門				
	メーカー名	商品名	種別		メーカー名	商品名	種別	
1	シュアラスター	インパクトジュニア	固形	⇒	1	ソフト 99	フクピカ 12 枚	ウエットシート
2	ウイルソン	艶再生	固形	⇒	2	シュアラスター	ゼロドロップシート	ウエットシート
3	ソフト 99	激防水 WAX	半ネリ	⇒	3	シュアラスター	ゼロウォーターシート	ウエットシート
4	シュアラスター	インパクトマスタージュニア	固形	⇒	4	ソフト 99	フクピカコーティング車専用	ウエットシート
5	シュアラスター	スピリット	固形		5	リンレイ	黒艶 半ネリ	半ネリ

1998 年度 売れ筋ランキング コート剤部門				2015 年度 売れ筋ランキング コート剤部門				
	メーカー名	商品名	種別		メーカー名	商品名	種別	
1	ウイルソン	チタン防水コート	コート剤	⇒	1	ミラリード	ベルシード 180m l	コート剤
2	ソフト 99	速ワックス	コート剤	⇒	2	CCI	スマートミスト 180m l	簡単コート剤
3	ウイルソン	超防水	コート剤	⇒	3	ソフト 99	スマートエッグハイドロフラッシュ	簡単コート剤
4	タイホー工業	イオンコートエース	コート剤	⇒	4	CCI	スマートミスト詰替 500m l	簡単コート剤
5	タイホー工業	イオンコートエクセレント	コート剤		5	シュアラスター	ゼロウォータードロップ	簡単コート剤

表 3 はオートバックス各店における「ワックス部門」と「コート剤」部門の 1998 年度、2015 年度の売れ筋ベスト 5 です。この 17 年の間でワックス、コート剤に対するニーズはどのように変化したのかをご紹介します。

1998 年度は 3 位の激防水 WAX (ソフト 99) を除いて、ベスト 5 に 4 つ固形ワックスが入っています。ところが 17 年後の同部門ベスト 5 には固形ワックスはランクインせず、4 位までがウエットシートタイプとなっています。

シートタイプのワックスは、ソフト 99 の「フクピカ」が 1998 年 9 月に市場投入したのがはじまり。最初のフクピカはドライタイプで、現在のウエットタイプが市場投入されたのはその翌年から。当時のフクピカをどの部門でカウントするのか決めかねていたのはそれだけ「フクピカ」が画期的だった証拠。今後も従来にはなかった発想の商品が生まれることを期待したいものです。

一方、コート剤は、この 17 年で簡単コート剤が主流になりました。この流れを作った商品が 2010 年より販売を開始したシュアラスターの「ゼロウォーター」でした。そ



ゼロウォーター (シュアラスター)

の後、同製品と同じようなコンセプトのコート剤が相次いで発売され、瞬く間に簡単コート剤の市場ができあがりました。2015年度で売れ筋ランキングトップに立ったのは、前述したミラリードのペルシード。カーケア商品には見えない高級感のあるパッケージで、ワンランク上のコート剤を提案、好評を得ています。

3 おわりに —

今回は洗車を取り上げましたが、実際に洗車をしようと思っても水を使える場所がないというユーザーも少なくないと思います。そうしたユーザーの場合、洗車場や洗車機が設備されているガソリンスタンド、コイン洗車場を利用することになります。

ただ、残念なことに両施設は減少傾向にあります。特にコイン洗車場はピーク時は全国に4,000~5,000カ所あったそうですが、現在は1,000カ所程度に減少しています。

コイン洗車場はバブル期の洗車ブームとともに遊休地の有効活用として増えましたが、時間貸、駐車場などより良い条件のいい活用方法に切り替えられました。

洗車ができる場所がなくなれば、自分で洗車を行うことも難しくなります。水を使わずにワックス掛けができるウェットシートタイプのワックスが売れ筋上位を占めているのは、そうした洗車環境の変化を反映した結果とも受け取れます。

カーケミカルメーカーも日夜そうしたニーズを捉えた商品開発を行っています。お近くのオートバックスにお越しの際は、そのような商品の説明やご相談にもお応えします。ぜひお気軽にお声掛けいただけますよう、よろしくお願いいたします。

以上

この件に関するお問い合わせ

【お客様からのお問い合わせ】

オートバックスお客様相談センターフリーコール：0120-454-771

受付時間：平日 9:00~12:00 13:00~17:30

【報道関係者からのお問い合わせ】

株式会社 オートバックスセブン IR・広報部 鈴木（すずき）、貴堂（きどう）

〒135-8717 東京都江東区豊洲 5-6-52 NBF 豊洲チャンネルフロント

TEL. 03-6219-8787 FAX. 03-6219-8762

※画像等につきましては、ホームページよりダウンロードできます。 URL: <http://www.autobacs.co.jp/ja/news/newsletter.php>